

02

第2章

地域住民を取り巻く現状と課題



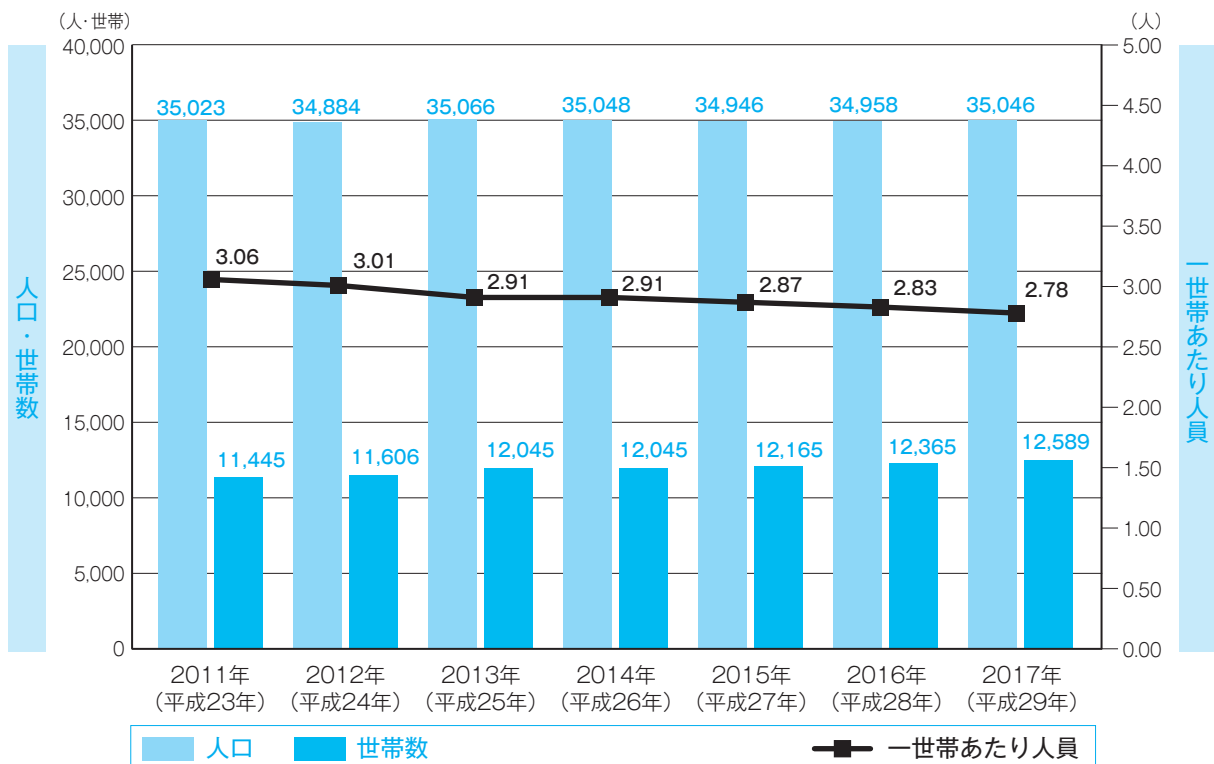
1 かほく市の現状

(1) 人口と世帯

①人口と世帯数の動き

かほく市の近年の動向をみると人口は35,000人程度を維持しており、世帯数は緩やかな増加傾向にあります。2017年（平成29年）3月末現在の人口は35,046人、世帯数は12,589世帯となっています。

人口と世帯、1世帯あたり人員の推移

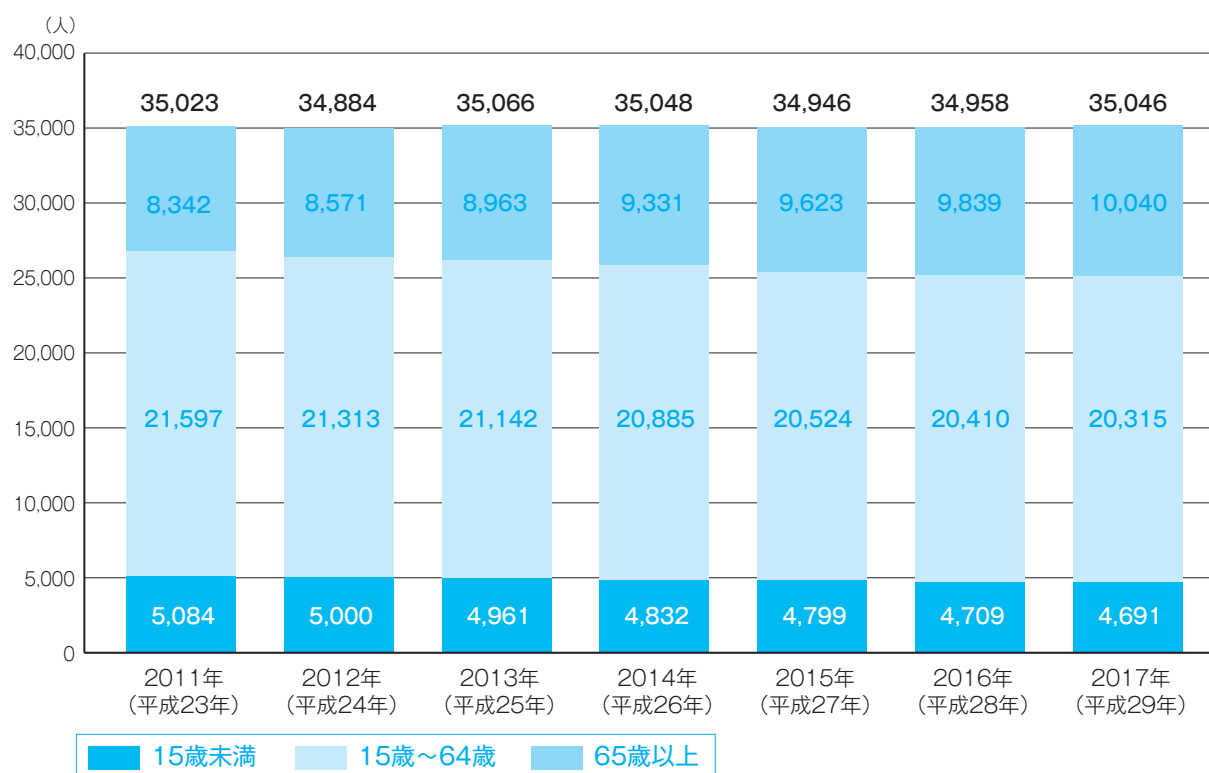


資料：住民基本台帳（各年3月31日）

②年齢別の人口の動き

かほく市の人口を年齢別にみると、0歳から14歳までの子どもの人口（年少人口）と15歳から64歳までの人口（生産年齢人口）が減少しています。一方で、65歳以上の高齢者の人口（老年人口）は増加しています。

年齢別の人口構成の推移

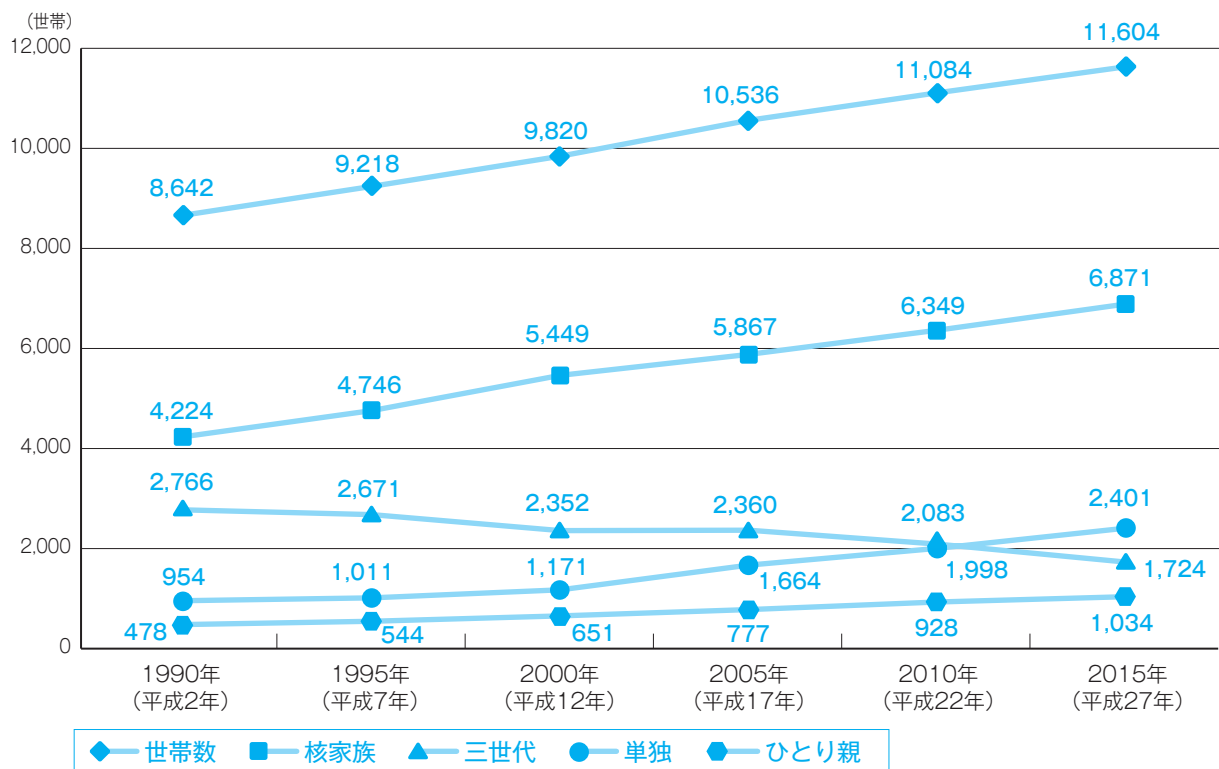


資料：住民基本台帳（各年3月31日）

③世帯の構成の動き

かほく市では、親と子で構成する核家族世帯やひとり暮らしの単独世帯、ひとり親世帯が年々増加しています。一方で祖父母と親、子で構成する三世代家族世帯が減少してきており、2015年（平成27年）には単独世帯が三世代家族世帯を上回りました。

世帯構成の推移



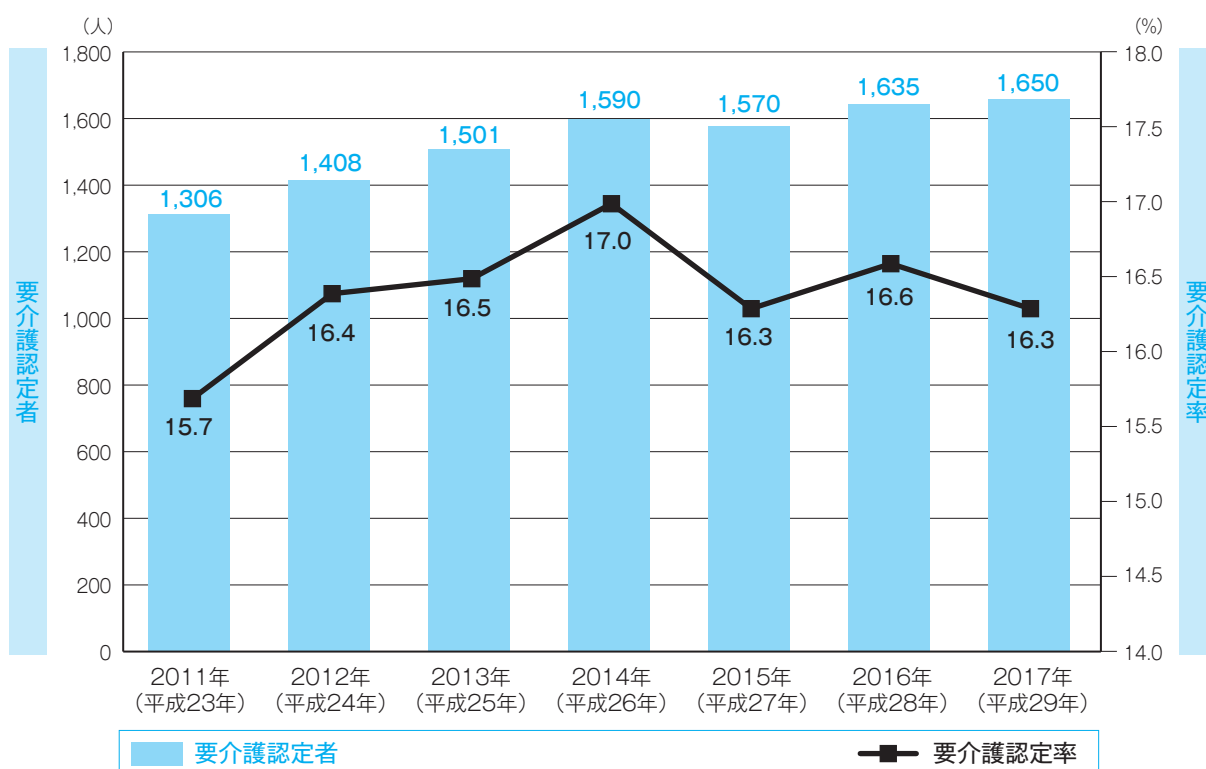
資料：国勢調査（各年10月1日）

(2) 対象者ごとの状況

①介護を必要としている方の状況

かほく市内の介護を必要とする方は増加傾向にあります。また、高齢者の人口に対して介護が必要と認定された方の割合は、2014年（平成26年）まで年々増加していましたが、以降は16%台で推移しています。

要介護認定者数の推移（第1号被保険者※）



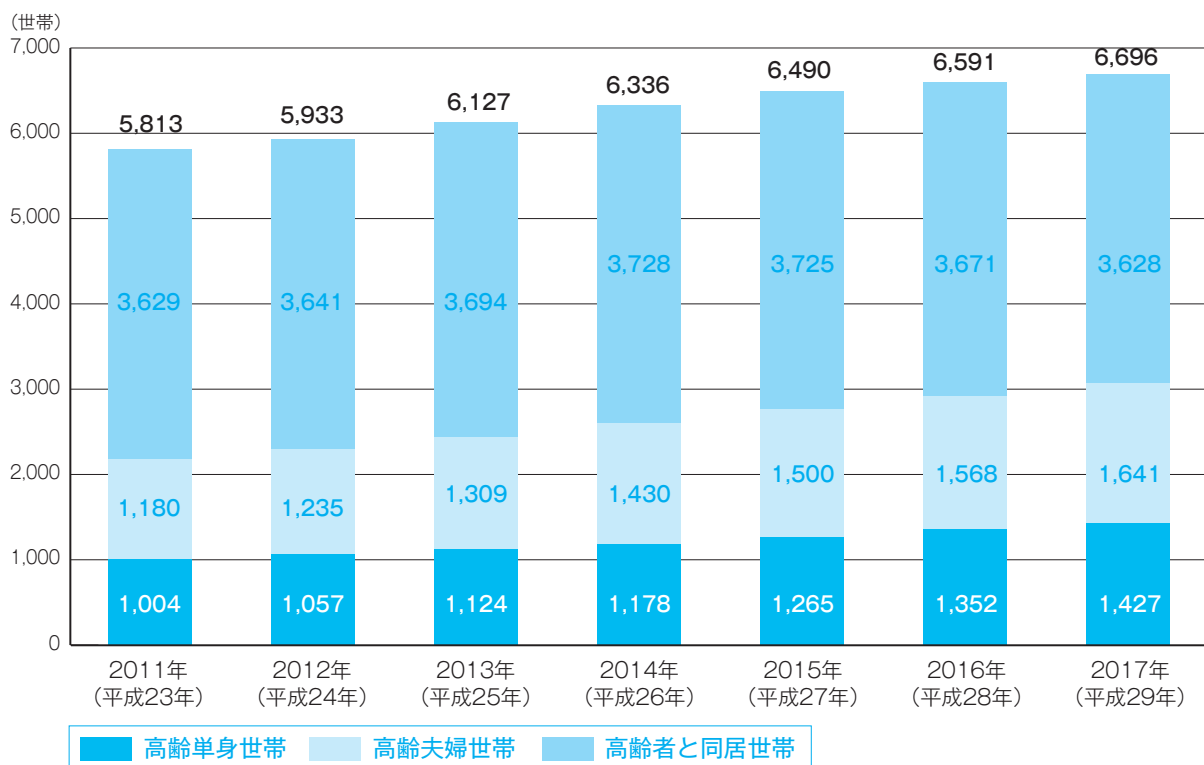
資料：かほく市長寿介護課（各年9月30日）

※65歳以上の方が第1号被保険者となります。【介護保険法第9条】

②高齢者の状況

かほく市内の65歳以上の高齢者との同居世帯数は、2014年（平成26年）以降減少してきていますが、高齢者単身世帯数、高齢者夫婦世帯数は年々増加しています。

高齢者世帯割合の年次推移



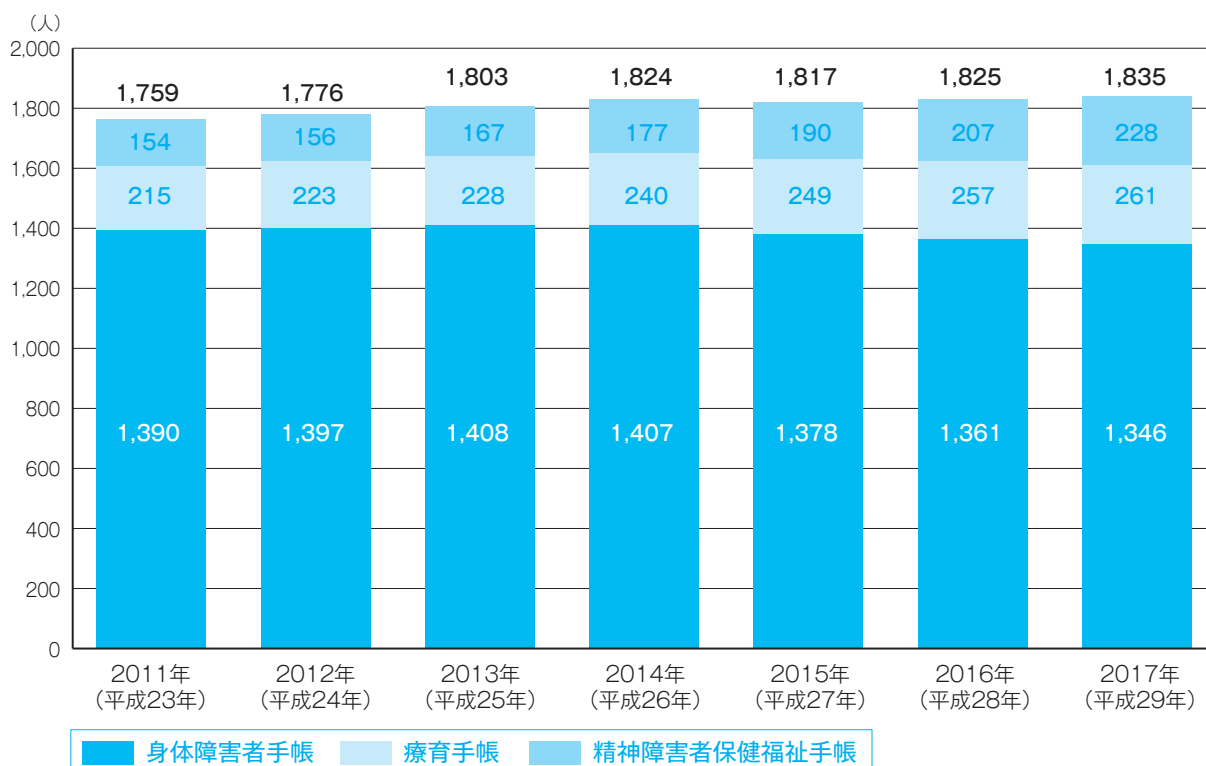
資料：住民基本台帳（各年3月31日）

③障がいのある方の状況

障がいのある方には、内容や程度に応じて、身体に障がいのある方に交付される手帳（身体障害者手帳）、知的機能に障がいのある方に交付される手帳（療育手帳）、精神障がいの状態にある方に交付される手帳（精神障害者保健福祉手帳）といった手帳が交付されます。

かほく市では、手帳を保持している方が増加傾向にあります。中でも精神障害者保健福祉手帳を保持している方、療育手帳を保持している方が増加しています。

障害者手帳保持者の推移



資料：かほく市健康福祉課（各年4月1日）

2 第1次活動計画の振り返り

(1) 第2次活動計画の取り組みに向けて

第1次活動計画では、市内6小学校区で「住民座談会」を開催し、地域住民から直接、地域での課題を把握・集約し、目指す方向性を掲げて地域づくりを進めてきました。

社会福祉協議会では、地域住民の生活や地域づくりを支えるために、第1次活動計画の策定後、「福祉教育事業」の実施、地域住民の交流の場である「地域のお茶の間活動（サロン活動）」の推進、住民が地域について話しあう機会として「住民座談会」や「地域座談会」の開催、地域で生活するうえで困難な状況にある方に対して、生活を支えるための「権利擁護事業」の推進などに取り組んできました。

こうした取り組みの最中でも、一人暮らし世帯の増加や核家族化の進行など、住民が暮らす地域の環境は変化しています。

行政計画である「第1次かほく市地域福祉計画」策定の際に実施された調査（2011年（平成23年）実施）結果では、地域住民の日頃の付き合いの程度について、「付き合いは少ない」との回答は29%でしたが、「第2次かほく市地域福祉計画」策定の際に実施された調査（2017年（平成29年）実施）で、同様の項目の回答は40%となっており、地域のつながりの希薄化は地域住民の実感として確実に進行しています。

このような状況を踏まえて、また、住民の意見を集約して策定した第1次活動計画を振り返り、見直したうえで、この活動計画では、より着実に地域住民を中心とした地域づくりを進めるため、目指す方向性を概ね引き継ぐこととしました。さらに、地域の課題に対して、住民を中心とした取り組みを支えるための体制を整え、地域づくりの充実を進めていきます。